



年末に南西の低空で接近する水星と金星を見よう



天空が広がるうぶやまの高原には、一足早い寒い北風が吹いています。産山から見える久住山、祖母山、阿蘇山は早くも雪が覆っています。夜半の外気温は0℃ですが、冬の夜空は透明度が高く、スターウォッチングには最適です。

今回の天文情報は、12月27日～31日の夕刻、太陽が沈んで30分後の西南西の低空で金星と水星の接近です。29日が最接近でその距離は5度位です。双眼鏡や望遠鏡の低倍率では同一視野に見ることができます。水星は-0.7等級、金星は-4.4等級で輝いています。太陽が沈んですぐで、まだ周りが明るいので金星をたよりに水星を探すとよいでしょう。水星はなかなか見ることができないのでこの機会にぜひ観察してみてください。

金星はこの後、1月9日に内合（地球・金星・太陽と見かけ上重なる）になり、1月中旬より明けの明星となり、太陽が昇ってくる前に東南東の低空で見られるようになります。

天文台はこの期間、27日、29日、31日は開館していますのでぜひお越し下さい。

